

# 平成30年度 学校評価報告書（実施結果） 定時制の課程

# 神奈川県立神奈川総合産業高等学校

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月14日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>① 教科指導においては、基礎基本を定着させることはもちろんのこと、「上級学校において役立つ学力」「社会の中で自ら生きていくために必要な学力」「学び直しとしての学力」の定着を図る。</p> <p>② 「学びの場」としての定時制高校の意義を再確認させ、生徒一人ひとりが主体的に授業に参加する授業づくりを実践する。</p>	<p>① 単位制システムを活用した多様な生徒のニーズに応える教育課程の確立を目指す。</p> <p>② 生徒一人ひとりが主体的に授業に参加する授業づくりを実践し、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた基礎基本の充実を図るとともに学習習慣の確立を目指す。</p>	<p>① 定時制生徒の多様な状況に応じたきめ細かい指導のためにGWPW等の工夫改善を行うとともに、インクルーシブ教育の視点を取り入れた学習指導の充実を図る。また、新学習指導要領の趣旨を踏まえた、教育課程の確立を図る。</p> <p>② 指導主事を招いた研究授業等を実施し、組織的な授業改善に取り組み、職員のスキルアップを図る。</p> <p>③ 関係するグループと連携し、授業規律を徹底させ、よりよい学習環境を継続して整備する。 * : GWPW (Group Work Pair Work)</p>	<p>① 言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実することができたか。</p> <p>② 組織的な授業改善の取組が深められたか。</p> <p>③ 生徒自らが受信して考え、発信する場の設定ができたか。</p>	<p>① 各教科とも授業改善の一環としてGWPW等の工夫改善を行い、生徒の言語活動の充実を図った。</p> <p>また、多様な生徒に対する学習指導や授業改善に向けて、話し合い等の機会を設けた。</p> <p>② 授業改善に向けた取り組みのテーマを『学びあいを通した「そうか！わかった！深まった！」につながる授業』とし、様々な工夫改善を行うとともに、指導主事や他校からも参観者を招き、研究授業及び研修会を実施し、組織的な授業改善の取り組みが深められた。</p> <p>③ 生徒自ら受信して考え、発信する場の設定として総合的な学習の時間等において、発表の場の充実を図った。全体発表の場として、活動成果発表会も行った。</p>	<p>① 多様な生徒に対する指導の更なる充実と共に、特に基礎基本の学び直しが必要と考える。</p> <p>② 多様な生徒の状況に応じた細かい指導のために、カリキュラム等の改善や学校全体で授業改善に向けた研修を工夫していく必要がある。</p> <p>③ HR活動や総合的な学習の時間等の授業と共に、日ごろから生徒の主体性を育む取組を通し、生徒自らが受信して考え、発信する場を増やす必要がある。</p>	<p>本校の中には実際に支援が必要な生徒がどれくらい在籍してどのような支援を受けているかが分かってよかった。</p> <p>・活動成果発表会では、しっかりと生徒が自身の言葉でプレゼンテーションを行っており、日頃のご指導と生徒の努力に感動した。</p>	<p>・生徒による授業評価(11月実施)においては肯定的な回答が90%を超えており、教職員の授業研究や授業改善の成果が現れている。しかし、中学校時代に不登校や学習につまずいた経験のある生徒が多く在籍しており、高等学校の授業を意欲的に取組むための基礎学力の定着が必要である。</p>	<p>・基礎学力の定着と学習習慣の確立をめざし、すべての生徒が毎日コツコツ取り組む「学びなおし」を充実させる。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>① 一人ひとりの生徒理解に基づく生徒指導や教育相談体制を充実させ、希望をもって学べる学校づくりを進める。</p> <p>② すべての教育活動を通して道徳教育を推進し、道徳的心情と道徳的判断力を育む。</p>	<p>① 安心安全な学習環境を継続させるとともに、教育相談体制を充実させ、生徒一人ひとりの学校生活をきめ細かく支援する。</p> <p>② 教科活動や学校行事、特別活動などを通じて、規範意識を高め、自律の態度を育成する。</p>	<p>① 校内巡回を徹底し、問題行動の早期発見、未然防止に努め、迅速な対応のできる体制を整備する。</p> <p>② 様々な問題を抱える生徒に寄り添う教育相談体制を整備するため、他グループ、年次団との連携を図る。</p> <p>③ 各活動におけるルールの徹底を図り、学期末等の全校集会において、生徒一人ひとりに自己評価させる機会を設定する。</p>	<p>① 校内巡回を徹底し、問題行動を早期発見、未然防止に努め、迅速な対応ができたか。</p> <p>② 生徒に寄り添う教育相談体制を整備し、他グループ、年次団と連携を図れたか。</p> <p>③ ルールの徹底を図り、生徒一人ひとりに自己評価させる機会を設定できたか。</p>	<p>① 校内巡回を毎時間実施し、問題行動の未然防止ができた。年間を通じて、落ち着いた環境を維持することができた。</p> <p>② 教育相談コーディネーターを中心に、情報共有を行い、生徒の状況に応じた体制を整備し、年次団と連携を図り、丁寧な対応をすることができた。</p> <p>③ 携帯電話等の使用に関するルールの徹底を図り、生徒一人ひとりに学校行事において2回自己評価を実施できた。自らの行動を振り返る機会とすることができた。</p>	<p>① 今後も落ち着いた環境が維持できるよう、職員集団の結束力を更に強めていきたい。</p> <p>② 様々な問題を抱える生徒が問題を克服しながら、卒業後のビジョンを描いていけるようキャリア教育の観点を踏まえた指導体制を構築していきたい。</p> <p>③ 授業中における桂帯電話等の使用に関するルールの徹底を職員一丸となって行うため、掲示物などを作成して、指導目標を見える化していきたい。</p>	<p>・携帯電話やスマートフォンについては使用ルールの徹底はもちろん大切であるが、それ以前の問題が出てきている。SNSの不適正動画などマナーの部分も学校で教える必要がある。改めて根本的な部分の指導も強化する必要があるのではないか。</p> <p>・大学では不正行為のほとんどがスマホによるものである。規範意識の醸成が急務となっている。</p>	<p>・校内巡回により問題行動の未然防止に繋がり、安心安全な学習環境の維持ができた。ルールの徹底を図り、生徒自身が行動を振り返る機会を設定できた。今後の課題として、道徳的な観点からのアプローチも念頭に取組を進めたい。</p>	<p>・生徒から標語などを募集し、生徒が自ら提案し、行動できる環境を整備することで、自分の事として取組めるようにしていきたい。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>① キャリア教育の一環として、道徳教育との関連性をもって、すべての教育活動において、生徒一人ひとりが社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てる。</p>	<p>① 生徒一人ひとりのキャリア教育の充実を目指し、それぞれが希望する進路実現を支援する。</p>	<p>① 生徒の職業観の育成に努め、年次団と連携しながら、就職活動サポート、進学支援、シチズンシップ教育及び道徳教育の充実を図り、生徒一人ひとりが希望する進路実現を支援する。</p> <p>② 生徒一人ひとりのニーズに対応した就業支援としてハローワーク及び地域の企業との連携を図る。</p>	<p>① 生徒の職業観を育成し、キャリア教育を充実させることによって、希望する進路実現ができたか。</p> <p>② 生徒一人ひとりのニーズに対応した就業支援としてハローワーク及び地域の企業と連携できたか。</p>	<p>① 生徒の職業観の育成のため、上級学校出前授業や1日カレッジ体験を実施し、生徒個々のニーズに応える進路体験を行った。また、生徒一人ひとりが希望する進路実現の支援のため、就職希望者や進学希望者を対象に、年次団と連携し、履歴書やエントリーシート・面接指導を実施した。</p> <p>② 生徒一人ひとりのニーズに対応した就業支援としてハローワーク等との連携し、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」において、就労観を養う丁寧な指導ができた。</p>	<p>① 今後も上級学校出前授業や1日カレッジ体験を実施し、早い時期から職業観の育成に取り組んでいきたい。また、年次団と連携し、生徒への丁寧な指導を継続していきたい。</p> <p>② 今後も生徒一人ひとりのニーズに対応した就業支援を継続して実施していきたい。また、ハローワークおよび地域の企業と連携を今後も継続して図りたい。</p>	<p>・生徒の進路意識を高めるため、日頃から個別に対応していただき、キャリア教育の充実にも感謝している。</p>	<p>・生徒の職業観の育成に取組み、生徒一人ひとりの進路意識を高めることができた。生徒の進路実現のため、必要なサポート体制を構築し、適切な支援を行った。今年度は、卒業後の進路未定者は、昨年度より少ないが、依然として、卒業生の3分の1程度いることが課題である。</p>	<p>・卒業後の進路未定者の減少のために、グループ、年次団と連携し、生徒一人ひとりに丁寧な指導を継続していく。また、ハローワークおよび地域の企業と連携し、早い時期から職業観の育成に取り組んでいきたい。</p>
4	地域等との 協働	<p>① 家庭や地域の教育力の活用と関連行政機関との連携を一層充実させ、教育力の向上を図る。</p>	<p>① 地域及び学校間の連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>① 学校、家庭、地域と連携した教育活動、開かれた学校づくり、学校説明会、ホームページ等を広く活用した学校広報活動の推進を図る。</p> <p>② コミュニティスクール指定校として特色ある教育活動を推進する。</p>	<p>① 地域や外部機関との連携を図り、学校周辺の環境整備事業やその活動状況について徹底できたか。</p> <p>② コミュニティスクールの意見を活用できたか。</p>	<p>① 清掃活動等地域との連携をはかり、学校周辺の環境整備事業はできた。</p> <p>② 後援会からの保護者どうしの連携を密にするため1月に合会を持ち意見交換できた。</p>	<p>① 地域以外の外部機関との連携については、更なる連携について今後も検討していきたい。</p> <p>② 来年度以降も引き続き連携の強化に向けて年度当初に計画していきたい。</p>	<p>・地域との協働が徐々にではあるが進化しているのではないかと考えている。</p> <p>・今後は防災関係で連絡等とれる機会があればよいと考えている。</p>	<p>・継続した取組により、近隣住民の方に評価される機会が増えた一方で、生徒が近隣住民の敷地で非行行為を行うなど、迷惑をかけていることも未だにある。</p>	<p>・本校の課題は状況をできる限り共有するとともに、防災や協働作業を通じた教育活動の参画などにより、本校がここにあつてうなど、迷惑をかけていることも未だにある。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>① 学校防災力の向上を図り、自らのちを守る防災教育を実践する。</p> <p>② 不祥事防止を徹底するとともに、教職員の課題解決能力を一層向上させる。</p>	<p>① 安全・安心で信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>② 生徒、保護者と職員の信頼関係のもと、充実した式典等の学校行事に取り組む。</p>	<p>① 防犯・防災体制の構築、防災教育の徹底により、学校防災力の向上を図る。</p> <p>② 関係グループと連携し、ホームページ等で緊急時の情報発信体制の確立を図る。</p> <p>③ 教職員の実践的指導力の向上により生徒自らが考え、主体的に式典等学校行事に取り組ませる姿勢づくりを図る。</p>	<p>① 防災学習会や夜間停電体験や、地域と防災対策について連携を強化できたか。</p> <p>② 緊急時の対応を整備できたか。</p> <p>③ 生徒が主体的に運営に携わった学校行事を実施できたか。</p>	<p>① 2回の防災学習・避難訓練では夜間停電体験や喫食体験、発電機等の防災機器の訓練によって、生徒・教員とも意識の向上が図れた。</p> <p>② 緊急時の基本データ書式の見直しを行った、来年度より実施する。</p> <p>③ 学校説明会等でも生徒会を中心として生徒が積極的に参加した。</p>	<p>① 地域との防災対策については更なる検討を継続して図りたい。</p> <p>② 災害時の学校残留予定生徒が約100名(35%)おり生徒の安全確保についての指導体制を構築していきたい。</p> <p>③ 生徒会以外の生徒の参加者が出るよう指導したい。</p>	<p>・学校管理・学校運営の観点からの「まち comi メール」の活用については是非お願いしたい。</p> <p>・定時制は後援会の活動を充実させていきたい。</p> <p>・防災意識を近年高めなければならぬ中で、共助のほうも教えて欲しい。</p>	<p>・夜間定時制ならではの被災を想定した防災訓練を充実してきた。</p> <p>・保護者との連絡体制を整備することが喫緊の課題である。</p>	<p>・保護者に「まち comi メール」の登録を行うことの理解を求め、保護者全員との連絡手段を構築し、防災のみならず保護者との連携に活用する。</p> <p>・風通しのよい職場環境による未然防止と早期発見に努めることで、教職員の事故・不祥事防止に取り組む。</p>